

国語教育 相談室

小 学 校

No. 61

国語教育相談室
No. 61

特 集

国語力を高める 「読書」のあり方

「読書生活」をデザインする力を育む読書指導 高木まさき

「読解リテラシー」からみた読書活動 甲斐雄一郎

新企画 — おはなし定期便

ぼくの“ふわふわの” 石井睦美



新企画 — わたしとことば

「一期一会」 阿刀田高

新連載 — 教師力講座 「板書の工夫で授業が変わる」

書写の時間を考えよう

光村図書

光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.116 定価126円(税込)

2007(平成19)年9月25日発行

発行人=常田 寛

発行所=光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9

電話03-3493-2111

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

印刷所=村田印刷工業株式会社

デザイン=秋葉 幹司

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。

くわしくは、光村図書ホームページ「光村チャンネル」をご覧ください。

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書広報部までご連絡ください。

一期一会

作家 阿刀田 高

ずいぶん昔から「好きな言葉を」と求められると「一期一会」を挙げるが多かった。当時は知名度が低く、

「どう読むんですか？ どういう意味ですか」

と聞かれることもあったが、昨今は、なにしろ響きがよく意味内容も潔いから、ところどころで繁く用いられるようになった、と、そんな気がしないでもない。

——少し手垢がついたかな——

と鼻白んたりすることもある。

本来は茶道の言葉だった。千利休の高弟・山上宗二の言で、「今日の茶会を一生にただ一度の出会いと心得て、心を尽し、最善をまつとうするよう努める」と、これは昔、辞書で調べた。現実には、同じ仲間と茶席をともにすることは、よくある。だからと言って、

——今日は、まあ、このくらいでいいか。次にもっとサービスをすればな——

これは絶対にいかんということだ。

人との出会いは人生そのものと言ってよい。ゆるんだ気持ではなく、その場その場の一瞬を大切にしていきたい、と、あははは、この言葉をいつくしみ、

——そうありがたい——

と願ってはいるけれど、私自身、実践しているとは、とても言えない。理想である、夢である。あらまほしい姿と告白すべきだろう。

ただ、七十余年を生きて来て、男女関係には、そこはかとなく一期一会、そんな気配の漂うケースが、ありましたね。

男同士はまた会うことも充分に考えられるけれど、女性については、

——あの日、あのとき——

思いを残しながら結果として一生会えなくなった関係、そういう情況、これは確かにありますね。小説や映画やドラマに、このテーマはうじゃうじゃ実在している。茶道ばかりではなく、恋愛道においても、

——今日を限りと思って頑張ろう——

役立つ言葉ではあるまいか。

わたしとことば

一期一会 阿刀田高



特集—

国語力を高める「読書」のあり方

「読書生活」をデザインする力を育む読書指導 高木まさき

「読解リテラシー」からみた読書活動 甲斐雄一郎

実践提案 ① 「くりかえし」に着目して読む 青山由紀

実践提案 ② 新聞を活用し情報を読み取る力をつける 臼井淑子

実践提案 ③ 学校全体で取り組む「読書の幅を広げる」活動 中條敏江

教師力講座 ①

「板書の工夫で授業が変わる」 安田恭子
吉永幸司

書写の時間を考えよう

書写の時間を楽しく ⑤

日常に生きる書写の力 新しい指導を考える会

書写ってこんなに面白い！ ②④

書写の要素 文字の中心 宮澤正明

おはなし定期便

ぼくの“ふわふわの” 石井睦美

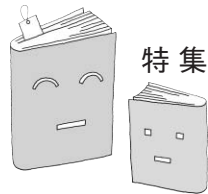
辛口コラム 一寸苦言

自作テストのすすめ 一徹国語人



阿刀田 高

1935年東京生まれ。早稲田大学仏文科卒業。国立国会図書館に司書として勤務する一方で執筆活動を続け、1978年「冷蔵庫より愛をこめて」でデビュー、1979年「来訪者」で日本推理作家協会賞、短編集「ナポレオン狂」で直木賞、1995年「新トロイア物語」で吉川英治文学賞を受賞する。現在、日本ペンクラブ会長。



国語力を高める「読書」のあり方

提言

高木 まさき

甲斐 雄一郎

実践提案

青山 由紀

白井 淑子

中條 敏江

一 最近の動向から

言語環境・メディア環境が激変する中、国語科教育は大きな変革を求められている。「PISA」「文化審議会答申」「中教審審議経過報告」「全国学力・学習状況調査」等種々の学力調査や提言等を通して変革の方向性が議論されている。

そんな中で注目されているのが「読むこと」の教育。所謂「PISA型読解力」が話題になったこともあり、「読解指導」に目が行きがちだが、実は「読解指導」を見直すためにも「読書指導」の改革は急務である。新「学習指導要領」でも「読書指導」は改革の柱だ。

そこで最近の動向から読書指導に関する論点を拾い出しておく。

一つは、学校図書館協議会・毎日新聞社による調査や「PISA2000」調査等により、日本の子どもたちの読書離れの深刻さが浮き彫りになり、従来のように「読解」指導さえしていれば「読書」力も身につくとは言えないことがはっきりしたこと。

二つめは、文化審議会が答申「これから時代の求められる国語力について」（二〇〇四年）において、情報化社会を背景に、「国語力」の中核である「考える力、感じる力、想像する力、表す力」等の育成のために

は「読書」が不可欠であるとしたこと。

三つめは、「PISA」が突きつけた課題。「PISA」と言えば「読解力」と考えがちだが、この「読解力」とは「reading literacy」の訳だ。通常「reading」という語は読解と読書を区別しない。だとすれば、「PISA」が突きつけた課題は「読書力」の課題とも言える。そこで問われていたのは、情報化社会における「読書生活」を見据えた「読書力」の質であったと言える。

以上を踏まえたとき、読書指導は、どのように見直されるべきか。大切なことは、現実の「読書生活」の姿、またあるべき姿を念頭に、読書行為と指導方法を丁寧に分析し、効果的な読書活動を組織することだろう。以下にその観点を列挙してみる。

二 読書行為の分析

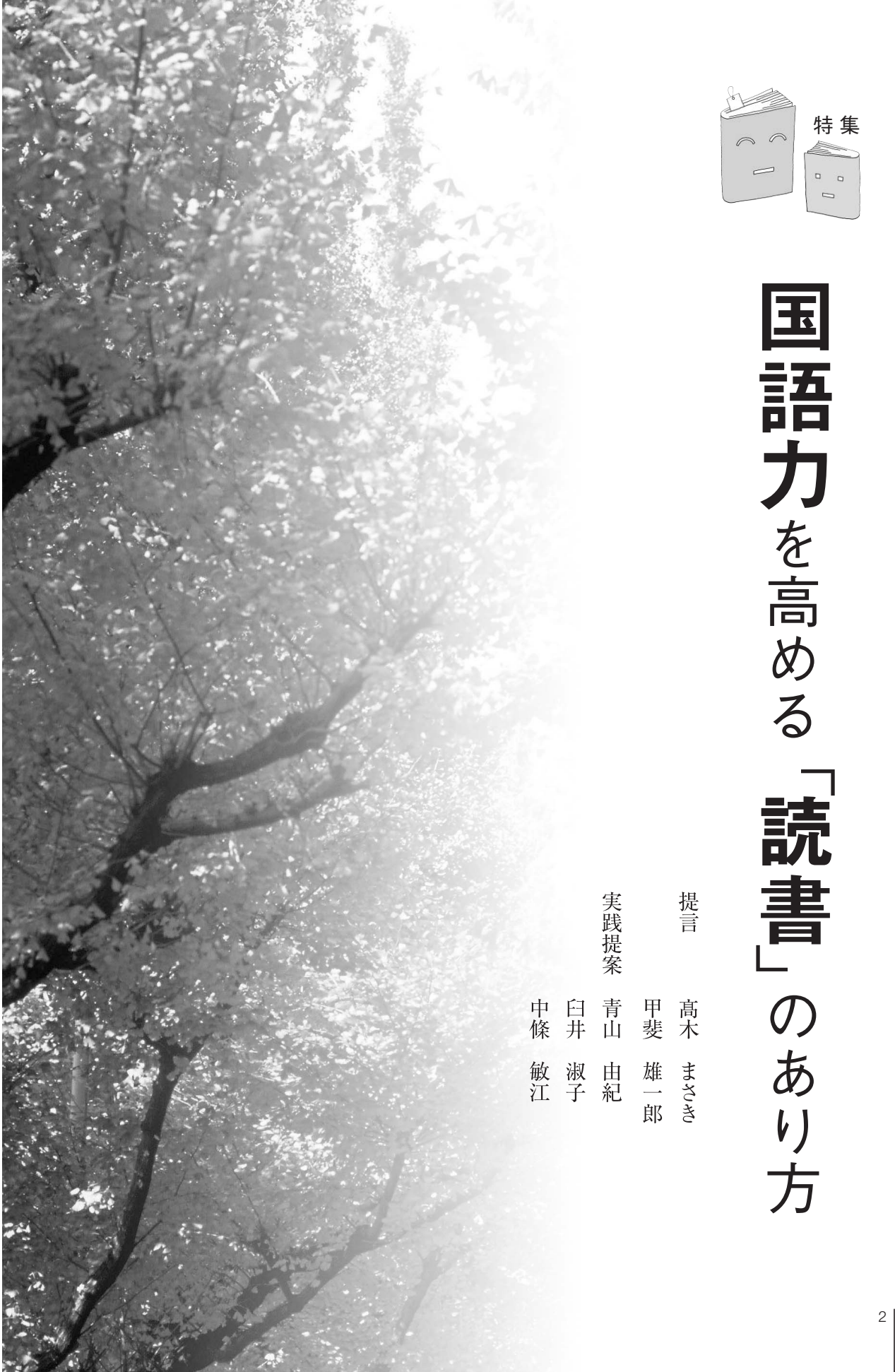
（１）読書の目的

読書の目的は、従来、娯楽読書と情報読書、生活読みと学習読み等と二分されることが多かった。だがこれでは粗すぎて目的に応じた読書指導は難しい。読書の目的は一つとは限らず、途中で変わることもありうる。それを前提として目的の分類を試みた。

①エネルギー読書（元気になったり、癒さ

「読書生活」をデザインする力を 育む読書指導

横浜国立大学教授 高木 まさき



れたり。あらゆる読み物が対象)

② ハウツー読書(何かのやり方・コツを知
る。入門書やレシビ等が好例)

③ インフォメーション読書(必要な情報を
集めて活用する。あらゆるものが対象)

④ レモンの切り口読書(切る角度により対象
や世界の見え方が変わる。随想や小説
等)

⑤ パラダイム読書(人生観・世界観の土台
を作る。哲学・思想や名作の類が好例)

* 右の①④は学生のネーミングを借りた。
ただしその学生は二分法の立場。

(2) 読書材の範囲・種類

読解と読書ではなく、より現実の「読書
生活」に近い「reading」の立場に立てば、
多くの読書材が視野に入ってくる。

① 本(絵本、物語・小説、伝記、詩歌集、
科学的読み物、解説書、電子ブック等)

② 新聞、雑誌、広告(情報だけでなく、写
真・図表、レイアウトの仕方等も)

③ 辞書、事典、白書、統計、年表、参考図書

④ 表紙、目次、索引、手引、注釈・解説

⑤ 掲示、板書、学級通信、規則、ガイド
ブック、パンフレット

⑥ ホームページ、Eメール、マンガ、写真・映
像等

① 作者・筆者(単に同じ作者・筆者だから
でなく、ものの見方、考え方に着目さ
せる)

② シリーズ物(単に同じシリーズだからで
なく、人物像などを掘り下げる)

③ テーマ、題材・素材、設定・事柄・事件の共
通性

④ ジャンル(ファンタジー、昔話、成長物
語、伝記、歴史小説、科学的読み物等)

⑤ 人物の性格・心理・考え方・行動等の
類型

⑥ 物語の構造、筋・展開、語り手等の類型

⑦ 表現、描写、文体等の特徴

(3) 読書活動の種類

どのような読書の力をつけさせるのかを
明確にし、それに相応しい、より効果的な読
書活動を組織したい。知識や技能を身につけ
させ、それを支える能力を育むことで、活動
は価値ある経験へと昇華する。それが読書へ
の興味や関心、意欲を育てる。

① 読み聞かせ、アニメシオン、朝読書

② 読書記録、読書計画(読みたい本も記入)、
学級文庫作り

③ 読書感想文、読書感想画

④ 読書紹介、ブックトーク、読書発表会、読
書郵便、読書新聞

(3) 読書材に関する基礎知識

読書材の範囲や種類に応じて、それらに
関する基礎知識の活用も欠かせない。

① 本の構成、本の種類(目次・索引・奥付、
単行本・文庫本、事典、参考図書等)

② 新聞や雑誌の種類・構成・編集の仕方、
関連ウェブサイトの探し方、読み方

③ 本・文献・情報の収集方法(図書館、
インターネット、書店等の活用)

(4) 読書行為のプロセス

次のような読書行為のプロセスを想定し、
それぞれにあった指導法を考える。

① 多様な活動の中から、読書を選択する
(なぜ映画やインターネットではない
のか)

② 読む前に、本や文献に関する情報を得る
(図書館、書店、書評、インターネット
等)

③ 読みながら考えたり、想像したり、批評し
たり、交流したりする

④ 読んだあとで、評価したり、人に伝えたり、
読み広げたり、再読したりする

(5) 読み方の種類

これまでのように分析的な読みばかりで
なく、現実の「読書生活」に生きる目的に応
じた多様な読み方も学ばせたい。

⑤ 本の帯作り、ポップ作り、紙芝居作り、絵本
作り

⑥ 説明書等に従った物作り、説明文の記述と
事実を比べながら読む

⑦ 調べ学習から発表・レポート・意見文作成へ

⑧ 読書から創作へ(物語作り・詩歌作り・詩
歌集作り、事典作り等)

⑨ 教科書を二冊の本として読む(大村はま氏
の実践等)

四 「読書生活」をデザインする力へ

冒頭で「読書指導」に関する最近の動向
を取り上げた。しかし肝心なことは、それら
動向の底に潜む危機を見据えることだ。最後
にその点を確認し、稿を閉じたい。

私たちは、溢れかえる情報の中で偶然手
にした「情報の断片」(文化審答申)に動か
されがちだ。しかし情報は常により大きな知
識構造の中に組み込まれており、そこから切
り離された「断片」は過ちの原因ともなる。
あるいは経済のグローバル化が進む中、人々
はうまく立ち回って自分だけ得をする「情報
の断片」を求めたがる。だがそれは現実追随
型の思考は生んでも、あるべき社会を構想す
るような価値創造型の思考は生み出さない。

そこで種々の本や情報を、様々な読み方を

① 黙読・音読・朗読・群読

② 熟読・速読・拾い読み・斜め読み、再読、多
読・乱読

③ 比べ読み・重ね読み・広げ読み

④ 題名・表紙・筆者のプロフィールを読む、目
次・索引を読む、前書き・後書きを
読む

三 指導方法の分析

(1) 読書指導の段階性・位置づけ

読書指導は、部分的・単発的な取り組み
では成果があらがない。単元内、年間、学年
を超えた発達上の段階性・位置づけなどを明
確にした指導が望まれる。

① 読書行為のプロセスに応じて

・ 読む前に何を指導・支援するか
・ 読んでいる最中に何を指導・支援するか
・ 読み終わった後に何を指導・支援するか

② 年間カリキュラム、教科間での位置づけ

③ 発達上の段階性(読書興味の発達、読書技
能の発達)

(2) 読書を広げるための視点

読み広げたり、読み比べたりするには、
単に同じ作者・同じシリーズだから、という
のではなく、より具体的で、より多様な視点
を設けることが効果的である。

通して、比較し、批判し、関係づける力、ある
いは一冊の本を読み通してねばり強く思考す
る力が重要になる。そのために、これからの
読書指導は、旧来の読解・読書、あるいは娯楽
読書・情報読書等の二分法から脱し、情報化
社会の現実即した「読書生活」をデザインす
る力を子どもたちに身につけさせるものでな
ければならない。

先に例示した読書行為や指導方法の分析
は、そうした読書指導を実現するために欠く
ことのできない作業だと考えている。

「読解リテラシー」からみた読書活動

筑波大学准教授 甲斐雄一郎

「社会に参加」するための読解リテラシー

誰もが耳にすることになった「PISA」では、読解リテラシーを「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発展させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力（※1）」と定義している。

読むことの学習指導において「社会に参加」するとはどういうことか。これまでは暗黙のうちに読書活動は「個人の営み」とされてきたために、こうした定義に私たちはあまりなじみがない。もちろん読書会や読書発表会など、読書活動を他者との共同作業の一部として位置つけた注目すべき実践はこれまでも存在した。しかし、読書活動を人々のつながりの中に位置づけ直して考えてみようとする実践を目にするようになったのは、「PISA」の定義と相前後した、ここ数年のことであるように思われる。

そしてそのような実践においては、
・目的やテーマに沿って本を選ぶこと
・必要などころを要約したり抜き出したりすること
・紹介の仕方を話し合うこと
などの、国語力のさまざまな展開が個人のものであるだけでなく、読書活動に「参加」する仲間のためにも意味をもつ場として考えら

れているのである。

単元「チェーン読書」について

その典型例として見なされるのが松林陽子氏による「チェーン読書」の実践である。この単元名について松林氏は次のように述べている。

「読書は個人的な営みであるが、自分が何を読もうか決めるときには他からの情報が大きな位置を占める場合がある。ある人の紹介した本が、他の人へと読みつなげられていく。また、一冊の本がテーマをもって他の本とながつていく。つまり本から本へ、人から人へと……チェーンのように、というのが単元名『チェーン読書』の由来である。（※2）」
単元は全七時間である。学習は個人で設定したテーマに沿った本のパンフレットづくりの呼びかけ、紹介する本・テーマの中間発表、テーマが共通する者同士でのグループづくり、パンフレットづくり、パンフレットによる情報交換、という流れである。情報交換とは図書室のテーブル一面に広げたパンフレットと、そこで紹介されている本とを読み合い、また、パンフレットの後ろに綴じ込んだ「書き込みのページ」に感想を書き合う活動である。松林氏はこの場面での活動を格別楽しんでいる生徒を見て、「読書はコミュニ

ケーション」と感じたと述べている。そして松林氏は「子ども学習記録」を用いつつ、この単元において行われた友達とのコミュニケーションの機会を通して、読書をめぐる個人の体験を広げるとともに、「友人関係そのものも今までは違う深みを伴っていくのではないか」と示唆している。

興味深いのは、指導者としてのこの実感が、アメリカにおける読書グループ（ブッククラブ）の調査を行ったエリザベス・ロングの観察と通い合うことである。すなわち彼女は、読書グループでの読書会を通して参加者一人ひとりが「新しい結びつき、新しい意味、そして新しい関係——本の登場人物への、あるいは著者への、彼女たち自身への、グループの他のメンバーへの、彼女たちが生きている社会と文化への——を創りだす過程にあるのを見ることができる（※3）」と指摘しているのである。

しかし、言うまでもないことだが、単元の計画と教師のあたたかなまなざしがあれば、それだけで子どもたちが「チェーン読書」に継続して参加できるわけではない。松林氏がこの単元実施の一年後に行ったアンケート調査のうち、本を読む契機についての集計結果は「今まで本をよく読んでいたA集団」と「日頃あまり読んでいなかったB集団」とにおいて、先生や親の薦めと友達の薦めによる

順序が逆転している。すなわちB集団は友達からの紹介が本を読むきっかけとなった比率が高いのに比べ、A集団の子どもたちにとって友達が紹介する本は「興味をもてるもの」がなかった、「気に入らない」という声もあったという。

教師の新たな仕事

ロングが挙げている調査対象である読書グループからのメンバーの離脱の理由のうちの一つは、やはり「選書の質」の問題であった。

チェーン読書であれ読書会であれ、いくつもの制約にもかかわらずその範囲内での多様性は認められる必要があるだろう。しかしそれが「A集団」の子どもたちの一部のような素朴な忌避感を引き起こすことを念頭におくならば、学校教育におけるこうした活動はいくつかの条件の設定が必要になるだろう。今想定されるのは「ディスカッションの質の保証」と、「集団で課題を分け持たざるを得ないテーマの共有」である。

本をめぐるディスカッションの質やテーマは本それ自体が決定する側面を無視しえない。しかし、
・本についての言及の仕方を子どもたちが豊かに知っている場合

・子どもたちの生活経験や読書経験を教師が把握している場合

・探求すべきテーマが重要であることを子どもたちが自覚している場合

は、ディスカッションの展開および質の決定に関しての本それ自体の比重は小さくなるだろう。そしてこれらに着目した実践は少なくない。そこでこうした視点からそれらの実践を読み返すと同時に、毎日の国語の授業を構想してみること、新たな時代の「読解リテラシー」を育てるための意味ある課題であると考えられる。

〈出典〉

- ※1 国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能 OECD生徒の学習到達度調査（PISA）2000年調査結果報告書』二〇〇二年（ぎょうせい）
- ※2 安居總子・東京都中学校青年国語研究会編著『読書生活者を育てる』二〇〇五年（東洋館出版社）
- ※3 エリザベス・ロング著 田口瑛子訳『ブッククラブ アメリカ女性と読書』二〇〇六年（京都大学図書情報学研究会）

読書を広げる視点を養う

使用教材 『ずうっと、ずっと、大すきだよ』（一下）ほか

「くりかえし」に着目して読む

筑波大学附属小学校教諭 青山 由紀

1 「くりかえし」の特性と効果

低学年の読み物には、「くりかえし」が使われているものが多い。例えば『おむすび ころりん』の「おむすび ころりん すっとん」というのはやし言葉。『大きな かぶ』の「うんと こしょ、どっこいしょ」という掛け声や会話文、挿絵、場面など。

「くりかえし」という技法には、以下の特性と効果がある。

- ・リズムを生み出す。
- ・登場人物を増やしたり、大きくしたりしながら、徐々に盛り上げ、読み手の期待感を高める。
- ・結末を際立たせる。同じことを繰り返す展開の中で、最後だけ異ならせることによって、強調することができる。
- ・話の筋を予想しながら読み進めることができる。
- ・「くりかえし」に着目すると、人物の変容をとらえやすい。中心教材である『ずうっと、ずっと、大すきだよ』で「くりかえし」のもつ特性や効果を理解し、それまでに学習した教科書教材を「くりかえし」という観点で振り返り、さらに読書生活へと広げる単元を構想した。

2 単元「くりかえし」のあるお話

（1）「くりかえし」の特性と効果を知る
『ずうっと、ずっと、大すきだよ』

学習の終わりに、「くりかえし」出てくる会話文を検討させた。

お話の中にくりかえし出てくる「まとまった言葉（会話文）」の同じところや違うところを見つけよう。

まず、次の三つの会話文であることを確かめる。

- ①「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」（p 31・L1）
- ②「ずうっと、大すきだよ。」（p 33・L8）
- ③「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」（p 35・L6）

子どもたちの発言を列挙する。

- ・全部「ぼく」の言葉。
- ・①②はどちらも、「ぼく」が生きているエルフに言っていた言葉で、③はこれから飼う動物に対して言う言葉。
- ・③はこれから飼う動物に対してだけじゃなくて、エルフに対しても言ってるんじゃない。

・天国にいるエルフってこと？

・「ぼく」の心の中で、ずうっと生き続けるエルフに言ってる。だから、③だけ「ずっと」という言葉が二つ入ってるんだよ。「大すき」っていう気持ちが一番強い感じがする。

・題名と同じなのは③だよ。③だけが違う。だから、この最後の会話文が一番大事な言葉なんだと思う。

「くりかえし」に着目して違いを検討することによって、一年生なりに読み深め、主題に迫っていることがわかる。さらに、発言は既習教材の「くりかえし」にも広がっていった。

・「くじらぐも」にも「天まで とどけ、一、二、三」という「くりかえし」の言葉が出てきて、最後の三回目だけ違っていたよ。

そこで、既習教材から「くりかえし」を探すことにした。

（2）既習教材を「くりかえし」という観点で読み直す

『くじらぐも』『大きな かぶ』『おむすび ころりん』など

「くりかえし」のあるお話を見つけよう。

教科書の上下巻を読み返しながらか、「くりかえし」を見つけた。「ここにもあった」という声が行き交う。

・「くじらぐも」では「くりかえし」の言葉のたびに高く飛べるようになって、『大きな かぶ』では人数が増えていった。やっぱり、どちらも最後だけ違う。雲に乗ることができたり、かぶが抜けたたりした。

・『大きな かぶ』の方は、会話文の「くりかえし」だけじゃなくて、挿絵も「くりかえし」になっている。

・抜けなくてだれかを呼んできて、また引っ張るというお話の筋も「くりかえし」になっている。

ここで、「場面のくりかえし」を教えた。さらに、『おむすび ころりん』の「歌ややし言葉のくりかえし」を確かめ、さまざまな種類の「くりかえし」があることに気づかせた。『はなのみち』の対比的な挿絵も「くりかえし」として認めた。

（3）一般図書でも「くりかえし」を意識して読む

「くりかえし」の特性や効果から話の先を予想したり、声に出したりして楽しむことのできる本を読み聞かせした。（ここからは単元扱い）

〈使用図書例〉

- ◆『ごきげんなめのてんとうむし』 エリック・カール （偕成社）
- ◆『エバミナンドス（愛蔵版おはなしのろうそく）』 （東京子ども図書館）
- ◆『きよだいな きよだいな』 長谷川摂子 （福音館書店）

（4）自由読書の中で「くりかえし」のお話を見つける

自分たちで「くりかえし」のある本を探し、見つけた本を読書記録用紙に書き込み、交流させた。

3 おわりに

本実践から、次のことがわかった。

一つ目は、読書を楽しむのに、「くりかえし」に着目した読みが有効であること。「くりかえし」から話の先を予想することで、「やっぱり予想通りだ」「あれっ、予想と違ってきたぞ」など、本と対話しながら読むことができるからである。

二つ目は、既習教材を新たな観点で読み直すことは、読みの力をつけるのに有効であること。そのために、教科書を丸ごと学習材として扱う価値を実感した。



新聞を活用し情報を読み取る力をつける

横須賀市立鴨居小学校教諭 白井 淑子

1 「読書」の対象を広げ、「新聞」で情報活用能力を

子どもたちの国語力の向上を考えるうえで、近年特に、読書活動・読書指導に焦点が向けられてきている。これは、「これからの時代に求められる国語力について」（文化審議会答申 平成十六年）や「読解力向上プログラム」（文部科学省 平成十七年）などの提案によるところが大きい。これらの報告は、いずれも学力向上のために「読書活動」を推進する必要を訴えており、その際に文学的文章だけでなく、新聞や科学雑誌を含む幅広い範疇の読み物に親しむことを推奨している。

また、情報化社会に生きる子どもたちには、いわゆる情報活用能力の育成が今まで以上に求められる。情報を受信し、速やかに処理・判断する能力、必要な情報を取捨・選択する能力、情報を吟味・検討する能力、そして情報を再構成して発信し、他者とコミュニケーションするまでの一貫した能力の育成である。このような能力は情報教育だけで育成するものとはせず、国語科でも十分配慮し関連づけて指導していきたい。

このとき、「読むこと」を広い意味で解釈し、「情報を読み取る学習」と考えると、図書（書籍）はもちろんのこと、雑誌、

新聞、テレビ・ラジオ、インターネットなど多様なメディアの活用が考えられる。中でも新聞は入手しやすく、社会性も高いので、活用を工夫したい。そこで、教科書の教材に加えて新聞を活用した学習の実践を述べてみたい。

2 単元「二 材料の選び方を考えよう」（四下）の実践

「三 伝えたいことをはっきりさせて書く」（四上）で新聞への興味・関心をもった子どもたちであったが、記事を読むことよりも写真を見ることに関心が高かった。しかし、写真の意味や送り手の意図をよむという段階には達していなかった。

「一 材料の選び方を考えよう」は説明的文章『アップとルーズで伝える』を読み、そこで得たアップとルーズの手法を生かして、情報を取材して伝える単元である。『アップとルーズで伝える』の学習目標は、段落のつながり方に気をつけ、まとまりとその役割をとらえることである。その中で「アップ」と「ルーズ」の特徴を正しく読み取った子どもたちは、何気なく見ているテレビ画面には伝え方の工夫があることを改めて知る。そして、一画面であっても、そこには番組制作者（発信者）の

目的や考えがあることに気づかせ、子どもたちの認識をさらに深めたいと考えた。

そこで、導入に新聞写真のよみ取りと見出しを考える活動を取り入れて、『アップとルーズで伝える』を理解しやすくし、『四年三組から発信します』では取材内容を学校内や地域にあるものだけでなく、新聞記事から興味をもった事柄も含め、情報を収集し、再構成して発信することとした。補助教材として資料1「少年は何を思う」（朝日新聞13版 2004.5.19）と資料2「モハマド君はまだ大勢います」（朝日小学生新聞 2004.5.19）を扱った。資料1は、バグダッドで日常化する爆弾テロの炎が残る中、サッカールをする男の子の写真記事。資料2は、戦争で目を負傷したモハマド君同様の子どもたちが、まだイラクにはたくさんいることを伝える記事である。

資料1の写真を手がかりに、いろいろな情報を見つけ、気づいたことを自由に話し合い、その写真の伝えたいことを考える。

キャプションを省いて提示した資料1は、一見すると「サッカーする男の子」としかとらえられないが、写真をよみ取り、考え、話し合っていくと、その写真を選んだ発信者の意図がわかってくる。よみ取ったことの話し合いでは、「後ろで炎が上がつているのにサッカールをして逃げていないから、この子は火事や事故に慣れているんだ。男の子や背景の様子から、バグダッドの男の子に違いない」というような意見が出され、「遊び場がなく、危険と隣り合わせのバグダッドの子どもたちは、そんな中でも一人で遊んでいる。子どもに安全や平和をあげたい」

ことを伝えなかったから、この写真を選んだのだ、というまとめになった。

資料2を読んで、大事などころに線を引き、内容をまとめ、見出しを考える。

子どもたちが考えた見出しは手術の成功に関わるものが多く、戦争に関わるものは少なかった。多くの子どもたちの意識は、モハマド君の写真や手術が成功して退院した内容に集中し、この記事が伝えたかった主題に至らない。しかし、「記事にイラクの子どもへの援助の願いが書いてあって、リードの最後に『モハマド君はまだ大勢います』と書いてある」という発言をきっかけに、発信者がイラクの子どもたちの窮状を伝えなかったことを読み取っていった。

3 子どもたちが「新聞」になじみ親しむことから

『続けてみよう』（五上）には新聞記事を選んでスピーチする単元が組まれており、その後、朝の会などでスピーチ活動を取り入れると、子どもたちは新聞の情報を意識するようになる。『人と「もの」とのつき合い方』（五上）の題材である環境問題は、新聞に日々取り上げられているので、継続的に収集した切り抜きを活用していくと効果的である。

見出しや文章、写真、図表など、さまざまな要素が含まれている新聞は、情報を読み取る学習に適し、PISA型読解力の育成にも役立つと考える。まずは、子どもたちが新聞になじみ親しむことから始めたい。

さまざまな形の読書につなげる

学校全体で取り組む

「読書の幅を広げる」活動

白山市立東明小学校教諭 中條 敏江

1 はじめに

学校での読書指導の役割の一つに、どの子どもも同じように教養を高め、主体的に学習する力をも身につけさせることがあげられます。そのために、本校では、低学年は「絵本からの脱却」、中学年からは「読書の幅を広げる」、高学年では「手ごたえのあるものを読む」という三つの読書指導の課題に学校全体で取り組んでいます。

読書の習慣を身につけることで、国語はもちろんのこと、さまざまな教科でその力を活用することが期待できます。そのため、各学年10時間の情報教育のカリキュラムのうち、3時間を読書や情報の基礎指導に充てています。中でも「読書の幅を広げる」ことに重点を置いて取り組んでいます。

		基本的指導事項 3時間	操作的指導事項 7時間
		オリエンテーション・ききり・並び方	基本操作 マウス・文字入力
1年	教科 総合	オリエンテーション・分類・もくじ	基本操作 画像読み込み・ファイル
2年		オリエンテーション・図鑑・著作権	ローマ字入力 画像編集
3年		オリエンテーション	ホームページ検索 チャット
4年		資料集・インターネット・不足情報	掲示板・TV電話 画像処理
5年		オリエンテーション・年鑑・情報比較	ホームページ作成 協働学習
6年		オリエンテーション 百科事典・情報の真偽	

情報リテラシーのカリキュラム

2 「読書の幅を広げる」取り組み

(1) 読書の幅を広げる必要性

子どもたちには、物語を楽しむだけでなく、歴史や科学読み物も理解し関心をもつてほしいと思っています。しかし、物語とそれ以外の読み物では読み方が基本的に違います。理科や社会科では、非連続型テキスト（グラフや図表など）を読むことが必要です。また、初めから順に読んでいく物語とは違い、必要な情報を探すために、途中の章だけ読んでいく物語と違い、必要な情報を探すために、途中の章だけ読んでいく物語と違い、知的好奇心を満足させたりすることにつながります。

(2) 「分類」の考え方を生かす取り組み（低学年）

三学年からは理科や社会科が始まります。さらに中学年の国語科では、「読書の幅を広げる」ことが求められています。そのため、二学年の最後には「かんたんな分類」の授業をします。

45分の前半は、占いの本（1分類）、点字や民話（3分類）、遊び（7分類）や英語の本（8分類）など、いろいろな分類の本を分類番号と合わせて紹介します。授業の後半は、物語（9分類）以外の棚から読んでみたい本を探し、カードに書いていきます。カードに書くことで分類と本と棚を一致させていくのです。全員のカードを各分類の棚に掲示すると、さらに子どもたちの興味は高まります。この学習をしておくことで、物語以外にも楽しい読み物があることを知り、三学年における読書や理科・社会科の調べ学習にも備えることができます。

この学習の前段階として、二つの指導をしています。一つは、一学年の「本の並び方」の指導です。図書館の本は古い順でも大きさ別でもなく、内容のまとまりで棚に収められていることを学習します。10の分類を簡単に紹介し、そのあと利用する4分類や5分類の棚を覚えます。

もう一つは、二学年の前半に指導する「もくじを使う」です。「にわとりは足でオス・メスのちがいがわかるか」など、本にはさんだクイズの答えを、目次から探します。このときには、低学年でもわかりやすい簡単な目次のある本を使い、いろいろな分類の本から問題を作ること、少しずつ物語以外の本にも親しむことができます。

(3) ワークシートを利用する取り組み（中学年）

中学年では、四月に配布するワークシートの「読書のめあて」に「読書の幅を広げる」かわって読む」の項目が追加され、学年末に振り返りをするようになっています。また、指導の要点や発問を朱書きしたワークシートを各担任に渡し、指導の参考にしてもらいます。子どもたちは、「今年は、冊数にチャレンジジ

する以外に、○つ

の分類を読もう」

などためあてを決

めます。

また、朝の読書

記録カードに分類

番号の項目を設け

たり、A4用紙一

枚程度の理科や社会科の読み物を配布して授業の合間に読んで

りすることにより、読書の幅をさらに広げています。

(4) 読書「旬間」での取り組み

読書「旬間」には、担当者が各教室にブックトークに行きます。テーマを選ぶ際は、分類が多岐にわたるような選書します。また、その学年に合った、続きを読んでもみたくなるような本を、公共図書館から借りたり、司書や他校から紹介してもらったりします。また、ブックトークの記録をとっておき、次に生かせるようにします。

さらに、「分類ビンゴ」や「図書館一周」など、全校を対象に読書の幅を広げる取り組みを行っています。

3 おわりに

このような活動に計画的、継続的に取り組むことで、少しずつ子どもたちの読書量が増え、幅も広がってきました。また、国語の指導者である各担任が、読書の幅を広げることに関心をもつようになりました。

一年間の読書生活を振り返ろう

年 組 番 名

★読書のふりかえり

	すごい！	よかった	もうすこしがんばろう
読む	読む	読む	読む
借りる	読む	読む	読む
種類	読む	読む	読む
楽しむ	読む	読む	読む
関わる	読む	読む	読む

★もうすこしわしくふりかえろう

★次の学年になったらこうしたいな

中学年で使用するワークシート

「板書の工夫で授業が変わる」

板書 5つのポイント

元新宿区立西戸山小学校教諭 安田 恭子



スイミーで研究授業をした時、「板書計画はどのように考えていましたか。」と聞かれて困ってしまいました。特にベテランの先生から、「板書は計画的にしないと、学習の流れが見えなくなるよ。」と言われました。子どもの発言を書いていくだけではダメなのではないでしょうか。

また、字を書くのが苦手なので、できるだけカードを用意しているのですが、どうしても板書にメリハリがなく、自分でもわかりにくい板書になっているようで悩んでいるのです。



板書ってむずかしいですね。特に研究授業などで考えすぎてしまうと、むりやり授業を引っばってしまう形になるでしょ。でも、ちょっとした工夫で随分わかりやすくなるものですよ。二年生の「スイミー」を例にとって、板書をつくってみましょう。



スイミー しオ・しオニ作

海の中で元気をとりもどした日のスイミー

スイミーはおよいだ、くらい海のそこを。こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。

けれど、海には、すばらしいものがいっぱいあった。おもしろいものを見るたびに、スイミーは、だんだん元気をとりもどした。

にじ色のゼリーのようなくらげ。

水中ブルドーザーみたいな見ええび。

見たこともない魚たち。見えない糸でひっぱられている。

ドロップみたいな岩から生えている、こんぶやわかめの林。

毎時間書いたり、使ったりするものはカードにしておこう。

その時間のめあてと活動を明確にしておこう。

板書の行がえは、意図的にしよう。

文字の大きさやサイドラインの種類や色分け、□の囲みも工夫しよう。

すべての叙述を板書せず、逆に板書をしていないことで叙述に注目させよう。

スイミー レオ・レオニ作

海の中で元気をとりもどしたスイミーになって、日記を書こうー

スイミーはおよいだ、くらい海のそこを。こわかった。さびしかった。とてもかなしかった。

けれど、海にはすばらしいものがいっぱいあった。おもしろいものを見るたびにスイミーはだんだん元気をとりもどした。

くらげ いせえび

見たこともない魚たち

伝えたいポイントが明確になります。

「倒置法」「たたみかける表現」「同じ仲間の言葉」などを視覚的に印象づけることができます。

授業力は板書に表れる

京都女子大学教授 吉永 幸司よしなが こうし

教室には必ず黒板が正面に据えられている。毎日、黒板と向かい合っている子どもは黒板の少しの変化にも敏感である。小さなメモでも落とさない。黒板がきれいで、有効に活用している学級は生気に溢れている。

当然、授業においても、黒板の活用は、良い授業をするうえで重要な役割を果たす。

(1) 授業力があると良い板書になる。

「今日の授業はとてもよく分かった。」
と、感想を伝える子がいた。その理由は「黒板を見ていると、何が大事かということがよく分かった」であった。その授業は、あらかじめ、黒板に書く事柄や、どの位置に書くかということまで細かに計画をしていた。教材研究を丁寧に行っていたので自信があった。だから、子どもから「よく分かった」と言われたり、先輩から「良い板書です」とほめられたら、授業力が板書に表れてきたと密かに胸を張ったものである。

(2) 板書は考える力を育てる

最初は何も書いていない黒板であるのに、授業の終わりには、語や文、文章でいっぱいになる。しかも、整然と。課題や答え、

要点や要約文など、授業の目的に応じて書いていく。

板書で考える力を育てるには次のことは欠くことができない。

- ・ 学習の目標と、目標にたどり着く道筋を明確にする板書。
- ・ 語や文、文章の羅列ではなく、構造的にまとまりのある板書。
- ・ 教科書の言葉、子どもの発言、知識技能に関わる内容などが整然とした板書。

(3) 心がときめく板書で意欲を育てる

板書をノートに写させる活動をさせることがある。最初は、黒板の通りに写させる。

黒板の通りに写すことに馴れた頃を見計らって、少しずつ、自分の考えを書き加える。更に、自分だったらどんな板書にするかという気持ちでノートを書く、発言を聞くという雰囲気があれば、板書のメッセージが学習意欲に結びつく。

「先生は、何色のチョークを使うのだろう」「どのように書かれるのだろうか」

ノートを黒板に見立てて、心ときめかせながら板書に学ぶような国語教室づくりは学習意欲を高める。

板書 5つのポイント

- ① 学習スタート前には、板書計画を
- ② 「めあて」と「まとめ」を対応させる
- ③ 子どもの発言を生かし、思考を促す
- ④ 文字とカードで上手にメリハリを
- ⑤ ノートにも生きる板書を



1

板書の目的は、その時間に取り上げる叙述を抜き書きしたりすることだけではありません。導入・展開・終末それぞれの段階で何をどのように書くのか、しっかりと計画を立てておきましょう。

2

板書では、めあてだけが書かれるのではなく、めあて達成のまとめも、しっかりと明示したいものです。
まとめは、左の図のような児童に与えるワークシートの拡大版を示すなどの手立ても考えられます。

スマイル日記(パート3)
だんだん笑顔をうもてた日。
きょうはくは

3

教師の発問に対して、児童は必ずしも教師の意図したとおりに答えてくれるとは限りません。
児童の発言を授業のめあてにあわせて板書したり、気づかせたいことを、あえて板書せずに、教科書にサイドラインを引かせるなど、児童の思考を活性化・整理する板書にしましょう。



4

カラーチョークを使ったり、文字の大きさや太さを変えたりすること、言葉に囲みをつけることで板書にメリハリが出ます。
また、特に重要な部分や繰り返し使うもの(タイトル・登場人物など)は、カードを準備するなどして、生き生きとした板書を心がけましょう。

5

いつ、どれをノートに書かせ、前時や次時の学習ともつなげるような板書にするのか、十分に考えておきたいものです。
時には、学習のまとめをノートに書くときに、板書の大切な部分を消すことによって児童に印象づけることもできるのです。

日常に生きる書写の力

―心を込めて年賀状を書く―（五年）

新しい指導を考える会

1 実践の趣旨

書写学習の大きな目標の一つは、書写能力の日常化であり、学習したことがどれだけ日常生活に生かされるかが重要である。その意味で実際の場面を想定した「はがき」「手紙」という学習活動も年間の指導計画の中に設定しておく必要がある。

2 実践にあたって

「はがき」を使用しての書字活動は、文章（多くの文字）を書く活動となる。そのため、以下の点において書写の授業で学習した既習事項を意識させなければならない。そして、これらが本時のねらいとなるのである。

- ① 行の中心（六単元教材文字「もみじ」での既習内容）
 - ② 文字の大きさ「漢字と仮名」（七単元教材文字「読む」）
 - ③ 字配り（八単元教材文字「希望」）
- また、児童にとって学習をより実際の場面に近づけるため、以下の点に留意した。

- ① 相手意識をもたせる。

- ② その場にふさわしい用具・用材を選択させる。
- ③ 効果的な学習時期を設定する。（年賀状・行事の礼状など）

3 指導の実際

今回は、「年賀状を書く」という場面を設定し、相手意識をもたせるため、誰に送るのかを考えさせ、国語の時間と関連をもたせて、文章をあらかじめ用意させておいた。この時、レイアウトの例を示して、用具についても選択させておいた。

- ① 「賀正」を小筆で書いて、文章をフェルトペンで書く。
- ② 「あけましておめでとう」を小筆で書いて、文章をボールペンで書く。
- ③ 「あけましておめでとう」から、すべて鉛筆で書く。

児童の意欲を高めるため、図画工作の授業と関連をもたせて、事前にマーブリングや墨流しではがきに模様をつけさせたり、梅の花など好きな絵を小さく描かせたりして工夫するとよい。準備できないときは、色のついたはがきや色画用紙を用意しておくとうい。

4 指導計画（次ページ参照）

5 成果と課題

通常の書写の学習では、同一課題を一斉に書く場面が多いため、それぞれが選択した用具を使用して、自分の文章を書く活動は児童にとって新鮮であり、有意義であった。

書写で学習した内容が、日常生活において活用できることを実感することができるよう機会となった。

4 指導計画（全3時間）

- ① 単元名 お世話になった人や大好きな人に「年賀状」を書こう（11月）

② 単元の目標

- ・お世話になった人や大好きな人に気持ちを伝える。
- ・「行の中心」や「文字の大きさ」「字配り」について理解する。
- ・「行の中心」や「文字の大きさ」「字配り」を確かめて書く。

③ 学習の展開

	学習内容と児童の活動	教師の支援
課題をもつ	1. はがき大の紙に試書する。 2. ねらいを確かめる。 ①「行の中心」について考える。 ②「文字の大きさ」について考える。 ③「字配り」について考える。	・国語の学習と関連をもたせて、事前に文章を準備させておく。 ・3種類のレイアウト例を示し、事前に用具についても選択させておく。 ・「行の中心」について正しい例と誤例を比較して考えさせる。 ・「文字の大きさ」について、漢字が大きく平仮名が小さくなっている例（正）と漢字を小さく平仮名を大きく書いた例（誤）を比較して考えさせる。 ・「字配り」について、字間が詰まりすぎた例（誤）や行間の詰まりすぎた例（誤）を見て考えさせる。
追究する	3. 試書について自己批評する。 ①「行の中心」について自己批評する。 ②「文字の大きさ」について自己批評する。 ③「字配り」について自己批評する。 4. 評価カードに記入して、自己目標を設定する。 5. ねらいに気をつけて練習する。 6. 相互批評をする。 7. 意見交流する。	・試書にものさしで中心線を引き、行の中心を確かめさせる。 ・試書の漢字を○で囲んで、平仮名よりも大きく書いているかどうかを確かめさせる。 ・試書の字間や行間について詰まりすぎているかどうかを確かめさせる。 ・評価カードを準備して、自己の課題を確認できるようにする。 ・レイアウト例に沿った練習用紙（野線や枠などの補助線が入ったもの）を使用して練習させる。 ・隣同士で書いたものを交換し、ねらいが達成できているか確かめ合わせる。 ・相互批評の中で出た意見を交流し合い、全体で確認した方がよいこと、留意事項などをまとめさせる。
まとめる	8. はがきにまとめ書きをする。 9. 役割演技をして評価する。 10. 評価カードに記入する。	・事前に図画工作の授業と関連をもたせ、マーブリングで模様をつけるなどしたはがきに書くことで意欲を高めさせる。 ・隣同士で年賀状を受け取る人と送った人になって、もらったときの気持ちを交流し、うまく書けている所を評価し合わせることで達成感を感じさせる。 ・友だちからもらった評価をもとに自己評価させる。

連載 書写ってこんなにもおもしろい！ 24

書写の要素

文字の中心

山梨大学教授 宮澤 正明

今回は、文字の中心について取り上げます。

「文字の中心」とは、字形の中心軸のことで、古来、字形全体を揺るぎのないものにするための要素として重視されてきました。今日の書写学習においても、「文字の中心」を意識して書くことは、字形を整え安定させるための重要な要素の一つとなっています。

文字の中心には上下幅の中心と左右幅の中心の二通りが考えられますが、漢字や仮名は縦書きで発展してきたことから、縦の行に字形の中心を合わせる方法としてとらえられてきました。したがって、書写の要素としての「文字の中心」とは、字形の左右の幅に対する中心を意味するものとらえてよいでしょう。

漢字には、中心がわかりやすいものとそうでないものがあります。例えば、「十・山・中・田」のような、単独・左右対称形の文字や、一画目の始筆が中心線上にある文字、中心線上に目安になる点画や接する部分（接筆）、交わる部分がある文字は中心がわかりやすいと言えます。それに対して、例えば「七・夕・子・心」のように、中心がわかりにくい単独・非対称形の文字も存在します。

は三画目の始筆がそれぞれ中心線上に近くなる、などです。

七 夕 子 心

○一画目の始筆が中心線上に位置する文字

一画目の始筆が文字の中心上にある場合は、中心を取りやすいようです。しかし、これを外すと字形は整わなくなるので、不用意に書き始めないことが大切です。

上 水 字 主

○中心線上に目安となる点画や接筆・交点がある文字

二画目以降に、中心線上に点画や接筆・交点があると、それをめざして一画目を書くことができるので、比較的字形を整えやすくなります。

木 雨 会 父

○中心線上に目安となる点画や接筆・交点がない文字

対称形でも非対称形でも、中心に目安のない漢字は多くあります。例えば「口」は、単独・対称形であっても、中心に目安となる点画は存在しません。やはり、いったん外形を想像した上で一画目の位置を慎重に見極めることが重要になります。

口 西 氏 長

また、多くの漢字はさまざまな部分が複雑に組み合わさっているため、その中心をとらえることは困難です。特に左右・内外の組み立ての文字の中心は見極めにくいと言えるでしょう。ここで、文字の中心のとらえ方を整理してみましょう。

○左右対称形の文字

左右対称の文字はそれほど多くはないのですが、左右がほぼ同じ形をしているので、文字の中心はわかりやすいと言えます。ここで確認しておきたいのは、その特徴として横画が右上がりになること、点画から点画に移動するとき終筆に「はね」や「払い」などの連続的筆使いが生じることなどから、厳密には幾何学的対称図形にはなっておらず、視覚的重量も左右均等ではないということです。この点は、水平線を基調とする活字の明朝体・ゴシック体などと異なるので注意が必要です。

出 目 金 門

○非対称形の文字

漢字や仮名はほとんどが非対称形の文字と言えます。

次の字例などは、一体どこから書き始め、どこに中心を位置づけたらよいかがはつきりしません。このような文字の中心をとらえるには、まず外形をとらえた上で中心を見極める方法、基準となる文字に中心線を引きそれに対して点画や接筆などがどの位置にあるかを理解する方法などがあります。例えば、「七」は二画目が中心線よりわずかに左に位置する、「夕」は二画目の左払いと三画目の点との接筆部分、「子」は二画目の始筆、「心」

○左右の組み立て文字の場合

左右の部分が等分割されている場合は、偏の右端を中心線上に位置づけるのですが、次の字例のように左右が一对二、二対一に分割される場合は注意が必要です。

体 海 引 刷

○その他中心を取りにくい文字

内外の組み立ての漢字は中心がわかりにくいようです。特に「にょう」の漢字はその代表例です。「道」で中心を考えてみましょう。しんによは左側と下側の部分を占めていますが、右払いの上方にも隙間を作ることが要求されることになります。そこで、「首」の左右の幅を三等分割した左三分の一の所を全体を中心にするようにしましょう。次の図解で確認してください。

道 道

文字の中心は、必然的に行の中心との関係が生じます。文字の中心の感覚を高めることができれば、文字の中心と行の中心を合わせて書く「配列」の要素はクリアできると言っても過言ではありません。なお、横書きが増えた今日、文字の上下幅の中心に対する感覚も高めておく必要があります。これは今後の課題であり、研究の余地が十分あります。



ぼくの“ふわふわの”

石井 睦美

ぼくには、とても大切にしているものがある。ぼくが小さかったころ——幼稚園のとき——からだから、もう二年くらいずっとなんだ。

ぼくがそんなふうに言うとおねえちゃんは、「あんだ、まだ小さいじゃん」って、きまってる言う。

おねえちゃんとぼくはふたつしかちがわない。だから、ぼくが小さいなら、おねえちゃんだって小さいはずだ。だけど、おねえちゃんはいつだって、「あたしは、もうおねえさんだから」っていばるんだ。

そんなことより、ぼくが大切にしているものがなにかつていうと、それは“ふわふわの”だ。

ふわふわのなにか、じゃなくて、ふわふわの、なんだ。ぼくのふわふわの“は、もとおねえちゃんの”ふわふわの“だった。

おねえちゃんの“ふわふわの”だったときは、そのあとに、えりまきつていうのがくついていた。ちょうどそれに、しつぽがくついていたみたいに、ふわふわのえりまきつていうふうに。それから、

おねえちゃんの“ふわふわの”だったときは、しつぽだけじゃなくて、あたまもついていた。ちょうどそれに、あたまがくついていたみたいに、きつねのつていう。

そう、それがおねえちゃんの“ふわふわの”だったときは、それは、きつねのふわふわのえりまきだったんだ。

おねえちゃんがいまよりもっと小さくて、ぼくが赤ん坊だったころから、寒くなると、おねえちゃんのくびにいつもまかれていたきつねのふわふわのえりまきだった。

あるとき、おかあさんが洗濯機でそれをあらったら、全体がびよーんと長くなっていた。それで、きつねのふわふわのえりまきは、きつねだかなんだかわからないふわふわのえりまきだったものにかわった。

「ずいぶんのびちゃったわね」

と、おかあさんが言った。

「顔もへん」

と、おねえちゃんは言っ泣いた。

ぼくがあははって笑うと、

「のぶゆきのばか！」

と、おねえちゃんは言った。

ぼくはおねえちゃんが泣いたから笑ったんじゃない、そのきつねだかなんだかわからないふわふわのえりまきだったものがおかしかつたから笑ったのに。

「みいちゃん、それ、もうできない？」

と、おねえちゃんがおかあさんに聞いて、

「できないことはないけど、ちよつと長くなりすぎたかも」

って、おかあさんが言ったから、ぼくは、

「じゃあ、それ、ぼくにちょうだい」

って、言った。

「なんで？」

と、言ったのはおねえちゃん、

「わかった！」

と、言ったのはおかあさんだった。

「のぶくんはそれで、こしよこしよするの。そうでしょう？」

「うん」

と、ぼくは言った。

「やっだあ」

と、おねえちゃんが言った。

ぼくはずつと前から、夜ねるとき、綿のきれはしをちよつともらつて、それでほつたをこしよこしよしながらねむった。そうすると、ひとりでもちゃんとねむることができる。おねえちゃんは、そんなぼくを笑うけど、おねえちゃんなんて、一年生になるまで



網中 いづる／絵



おかあさんについてもらってねてたんだ。一年生になってからだつて、ときどきそうしていた。

「どうするの？ あげるの？ あげないの？」

それはまだ、おねえちゃんのきつねだかなんだかわからないふわふわのえりまきだったものだから、おかあさんはおねえちゃんにそう聞いた。

「どうしようかなあ」

と、おねえちゃんが言った。

ぼくが笑ったから、いじわるしてるんだ。

「あげないの？」

と、おかあさんがもう一度聞くと、

「いいよ」

と、おねえちゃんは言った。

「ありがとう」

と、ぼくは言った。

その夕方、おかあさんが「はんのしたくをしているとき、

「のぶくん、いいことしてあげる」

と、言つて、顔の横でハサミをうごかした。

「なに？」

「こうするの」

そう言つておねえちゃんは、ぼくのものになったきつねだかなんだかわからないふわふわのえりまきだったものを、切りはじめた。

きつねがとれて、なんだかわからないふわふわのえりまきだったものになった。しつぽがとれて、なんだかわからないふわふわのただのえりまきになった。

おねえちゃんはえりまきをいくつかに切つて、ちいさなハンカチ

くらいの大きさのをなんまいか作つて、ぼくにくれた。

「ぼくのふわふわのだ！」

大きな声でぼくは言った。

「これは、のぶくんにあげるからさ」

と、おねえちゃんが言った。

そのあと、おねえちゃんは、あたまとしつぽとふわふわで、かわいいきつねのぬいぐるみをひとつ作った。

「きつねくん。これはあたしの」

と、おねえちゃんは言った。とてもうれしそうに。

その夜からずつと、ぼくはぼくの“ふわふわの”といつしよにねむっている。こしよこしよしたりにぎつたり。“ふわふわの”といつしよだとぐつすりねむれる。

「あんた、まだ、小さいからね」

つて、おねえちゃん言うけど、二年生のぼくは、もうとつくにひとりだねむる。

それから、おねえちゃんも、ひとりだねむっている。あ、ちがうかな。おねえちゃんはきつねくんといつしよだから。



石井 睦美(いしい むつみ)
作家。神奈川県生まれ。出版社勤務を経て執筆活動に入る。『五月のはじめ、日曜日の朝』で花いちもんめ小さな童話大賞・新美南吉児童文学賞、ペンネーム・駒井れんで執筆した『バスカルの恋』で朝日新人文文学賞を受賞。『卵と小麦粉それからマドレーヌ』『レモン・ドロップス』『白い月黄色い月』ほか著書多数。

辛口コラム 一寸苦言

自作テストのすすめ

― 児童の学びの様子が見えてきます ―

一 徹国語人

どこの学校を訪ねて授業を参観させてもらつても、学習活動にワークシートを利用することがとても多いように思う。

教科書会社編のものを利用している場合もあるが、教師作成のオリジナルの場合も多い。つまり、その学校・学年・学級なりに、身につけさせたい技能や能力を限定し、児童の学習力の実態に合わせて工夫されているのである。

たとえば、文学的教材を読む学習のワークシートをとつてみると、

・教科書本文からの抜き書き法で主題読み取り

・主人公のつぶやき吹出し法で確かな心情読み

・文面作成法で各段落各場面の情景変化読み

など、その内容は実に多彩である。教科書の挿絵の一部を取り入れたりして、楽しく学習ができるようにいろいろなワークシー

トが作られている。

ところが、その単元の学習が終了したとき、形成評価をするための検査(テスト)用紙となると、自作している先生は少ないようだ。教材会社が製作したワークテストを利用しているのが一般的である。

児童の学習状況に合わせて工夫をし、適切なワークシートを作れる先生方が、どうして業者テストに頼つてしまうのだろうか。

教材会社が作った国語テストはどれも観点別に出題されている。そのほとんどが「答10点、書字・読字等の言語事項は半分の5点となっているため、計算上実には便利である。また、書字・読字を取り立てて検査するときは「答2点で25問ずつの50問にしている。つまり、教材会社のテストは非常に採点しやすく作られているのだ。」

しかしながら、各児童がその単元を通して習得したであろう内容(知識や理解力・思考力・表現力等)の度合い(軽重)について

今一度真剣に考えてみてほしい。

「本文からの抜き書きで正答を求めるもの」、「自分の言葉で要点を列挙したり並べたりするもの」、「解答群の中から記号を選択するもの」など、どれも同じく10点で処理してよいものとは思えない。また、内容理解と言語理解の配点のバランスが10点と5点というのも「考の余地があるだろう。」

せつかく、児童の学習状況に合わせたワークシートを作つて学びを深めさせているのであるから、学習した内容に合わせてオリジナルのテストを自作してみてはいかがだろうか。

多忙を極め、なかなか時間がなくてそこまでは無理だと思われるならば、業者テストを利用しつつ採点基準を工夫し、得点数値を問題ごとに変えてみるといい。

児童個々の学習達成度を今まで以上に深く理解することができるとは違いない。

教科書編集部リ

もう一つの「すがたをかえる大豆」

三年下巻「すがたをかえる大豆」には、当初はもう一案「植物としてのダイズの知恵」に焦点をあてた案もありました。わたしたちの食生活に欠かせない大豆とはいったいどんな植物なのかを知ることを通して、身近な食べ物に興味をもってほしいと考えたのです。少しだけご紹介します。

「ダイズは、根にも根粒といわれるマメができる。根粒の中には根粒菌とよばれる細菌が多く住んでいて、植物の生長にとって重要な窒素を集め、植物が利用しやすい形にしてくれる。ダイズは根粒菌から窒素を受け取ることができるため、やせた土でも元気に生長することができる。ダイズはお返しに、根の中に根粒菌が住みやすい場所を用意し、太陽の光を利用して作った養分を根粒菌に与える。ダイズと根粒菌は、お互いに大切なパートナーなのだ。」

最終的に「食べ物としての大豆のすばらしさ」を中心にした今の文章になりましたが、どちらの案にも「身近な食べ物に関心をもち、自分たちの『食』を見つめ直してほしい」という願いがこめられています。

食卓にある食べ物には、当然、収穫される前の植物としての姿や動物として生きている姿があります。子どもたちがこの教材をきっかけに身近な食べ物に目を向けると同時に、「この野菜はどんな花を咲かせるのかな」「この魚はどここの海にいたんだろう」など、時間的にも空間的にも、さまざまなことに想像を広げてくれたらと思います。

広報部便り

言語教育振興財団研究助成金 申請募集

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、優れた研究開発を行う個人又は団体に対して助成します。

◇助成内容

①言語教育の内容・方法に関するもの

②言語教育教材の質的向上に関するもの

③ 教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの

◇応募資格

小・中・高等学校で国語、英語、日本語教育を担当する教員個人・団体〔研究団体、学校（学年単位も含む）〕

◇助成件数及び金額

助成件数は八十件までとする。

助成金額は一件につき二十万～五十万円とする。

◇応募方法・締め切り

所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書又は実践報告書等の参考書類を添えて、十二月二十六日（水）必着で当財団事務局に郵送。（返信用封筒を同封のこと）

◆決定・発表

当財団「選考委員会」による選考を行い、平成二十年二月中旬に決定通知をします。

◆問い合わせ先

財団法人「言語教育振興財団」事務局
〒一四一・〇〇二一 東京都品川区上大崎二・十九・九
TEL 〇三・(三四九三) 七三四〇
FAX 〇三・(三四九三) 二一七四

「わらぐつの中の神様」の「雪げた」

五年下巻「わらくつの中の神様」は、昭和五十二年から掲載されている定評ある教材です。この作品中に「雪げた」が登場します。「雪げた」とはどんなものなのでしょうか。

写真1は 北海道などで見られる「雪げた」です。踏みしめたときに、きめの細かい雪が固まって、二本の歯と歯の間に雪がはさまってしまわないように、歯が台形になっています。

写真2は、新潟地方で見られる「雪げた」です。前歯をなくして後歯だけになっています。新潟地方に降る雪は、水分が多い「ベタ雪」です。ですから、前方が雪に沈みにくいような形状になっています。「雪げた」は、使われている地方の雪の性質によって、形が違うのです。作者の杉みき子さんの出身地が新潟であることから、教科書9ページで描かれるのは、写真2のような「雪げた」の挿絵になりました。文学作品の挿絵は、たとえ本文に書かれていないことでも、作品の背景になっている事実を調査し、それに基づいて描かれています。

写真1



提供：日本はきもの博物館

写真2



提供：小林履物店

お知らせ

「国語教育相談室」では、今回より、「教師力講座」と「おはなし定期便」の二つのコーナーを新設しました。

「教師力講座」は、国語科授業や学級経営などについての身近な悩みを取り上げ、明日からの授業に役立つ具体的なエピソードをご紹介します。

「おはなし定期便」は、毎号読み切りの創作短編をお届けします。あらためて「読書」の楽しさを実感していただければと思います。

また、この「掲示板」では、教科書編集部から、教材についてのエピソードをお届けしたり、よくあるご質問についてお答えしていきたいと思っています。

ホームページ「光村チャネル」も随時更新中です。会員サイト「わたしの授業」では、国語以外の教科でもアイデア豊かな指導案がご覧いただけます。会員登録は無料です。ぜひご利用ください。

ご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどありましたら、ぜひ広報部までお寄せください。お待ちしております！

FAX: 03-3493-5483

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp

[illegible]

<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

平成17年度版小学校国語教授用ソフト 大好評 絶賛発売中!!



光村「国語デジタル教科書」は、
プロジェクトなどの教材提示装置用に
開発された一斉学習のためのソフトウェアです。
全員で同じ画面を見ながら学習することで、
授業に一体感が生まれます。

光村国語デジタル教科書 1~6年

Windows® 版

学校フリーライセンス価格：各学年 52,500 円(本体 50,000 円)
※「学校フリーライセンス」は、校内でご利用になるパソコンの台数を制限しない契約です。



「実践活用ガイド」が新しくなりました！
体験版と併せてただいま配布中です。詳しくは下記ホームページをご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/>

※Windows®は、米国マイクロソフト社の登録商標です。

光村図書

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
TEL 03-3493-2111 (代表) 03-3493-4742 (直通) FAX 03-3493-5483
E-mail digital-info@mitsumura-tosho.co.jp

「光村の本」 好評発売中！

飛ぶ教室

大人の本の作家と子どもの本の作家が交流する。バトルする。新しい書き手が参加する。挑戦する。児童文学の冒険、ふたたび！

特集名	本体価格	定価	判型
2007秋 11号 石井桃子と児童文学の100年(10月発売)	952	1,000	B5変
2007夏 10号 動物園へ行こう(最新刊)	952	1,000	B5変
2007春 9号 創作特集	952	1,000	B5変
2007冬 8号 柴田元幸の「飛ぶ教室」的文学講座	952	1,000	B5変
2006秋 7号 はぼ まるごと一冊 長新太	952	1,000	B5変
2006夏 6号 ブーの森で語り明かそう	952	1,000	B5変
2006春 5号 創作特集	952	1,000	B5変
2006冬 4号 トーベ・ヤンソンのもうひとつの顔	952	1,000	B5変
2005秋 3号 神沢利子の世界	952	1,000	B5変
2005夏 2号 少女小説の知的なくらみ	952	1,000	B5変
2005春 1号 復刊特別号	952	1,000	B5変
年4回(1・4・7・10月)発売			

ベストエッセイ

日本文藝家協会編。人生の機微に触れる珠玉のエッセイ・アンソロジー！

書 名	本体価格	定価	判型
ベスト・エッセイ 2007 老いたる私たち(最新刊)	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2006 意地悪な人	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2005 成り行きにまかせて	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2004 犬のため息	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2003 花祭りとバーミヤンの大仏	2,000	2,100	四六判
ベスト・エッセイ 2002 落葉の坂道	2,000	2,100	四六判

光村ライブラリー

教科書で習ったあのなつかしい作品が、今よみがえる。

書 名	本体価格	定価	判型
光村ライブラリー中学校編 全5巻セット	5,000	5,250	菊判
光村ライブラリー中学校編 各巻	1,000	1,050	菊判
光村ライブラリー小学校編 全18巻セット	18,000	18,900	菊判
光村ライブラリー小学校編 各巻	1,000	1,050	菊判

名詩の世界

西郷竹彦著。著者自ら小学校・中学校・高等学校の現場で授業した経験が生きる。

書 名	本体価格	定価	判型
西郷文芸学入門講座 第1巻 第3巻 第5巻 第6巻	2,095	2,200	A5判
西郷文芸学入門講座 第2巻 第4巻 第7巻	2,381	2,500	A5判

漢字ステージ100

小中一貫教育先駆的な教育特区品川区と国語の光村図書が共同開発。

書 名	本体価格	定価	判型
漢字ステージ100 1・2年生	905	950	B5横
漢字ステージ100 3・4年生	905	950	B5横
漢字ステージ100 5・6・7年生(8・9年生)	905	950	B5横

ジュニアコロンブス21

小学生のための英語テキスト。英語を使ったコミュニケーションの楽しさを、子どもたちと一緒に実感してください。

書 名	本体価格	定価	判型
JUNIOR COLUMBUS 21 児童用テキストBOOK1(3・4年用)	524	550	B5判
JUNIOR COLUMBUS 21 児童用テキストBOOK2(5・6年用)	524	550	B5判
JUNIOR COLUMBUS 21 指導書BOOK1(CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判
JUNIOR COLUMBUS 21 指導書BOOK2(CD3枚・別冊ブックレット付)	4,571	4,800	B5判

新版中日交流標準日本語

中国人学習者のための総合日本語テキストの決定版！

書 名	本体価格	定価	判型
新版中日交流 標準日本語 初級上下巻セット(分売不可)	4,000	4,200	B5判
新版中日交流 標準日本語 初級CD(6枚組み)	3,000	3,150	—

光村図書・人民教育出版社共同編集

書 名	本体価格	定価	判型
近代国語教育論体系 全20巻	172,816	181,457	菊判
近代国語教育論体系 増補5巻	43,205	45,365	菊判
画集「野田弘志」	43,000	45,150	B4変

●全国の書店および、弊社HP(光村チャンネル<http://www.mitsumura-tosho.co.jp> からオンラインショッピングをクリック)にてお求めいただけます。